

外為短観レビュー 足元の円安に対するFX投資家の対応は？

はじめに

ドル/円が25日に一時90.68円まで上昇したほか、ユーロ/円も同日に121.04円、豪ドル/円は17日に95.00円まで上昇するなど、年始の為替市場は「円全面安」の展開となっている。安倍・自民党政権が推し進める「大胆な金融緩和」や「積極財政」が足元の円安の原動力となっているが、きっかけとなったのは昨年11月14日に民主党の野田首相(当時)が衆議院の解散を宣言した事であった。その直前の各通貨ペアの水準はそれぞれ、79.30円前後、100.80円前後、82.80円前後であり、わずか2カ月の間にドル/円が約14%、ユーロ/円は約20%、豪ドル/円も約15%もの大幅上昇を記録した事になる。後述する外為短観の「予想DI」が示したFX投資家の円安見通しが見事に的中した格好だが、その見通しに基づく実際の投資行動がどのようなものであったかを検証してみたい。

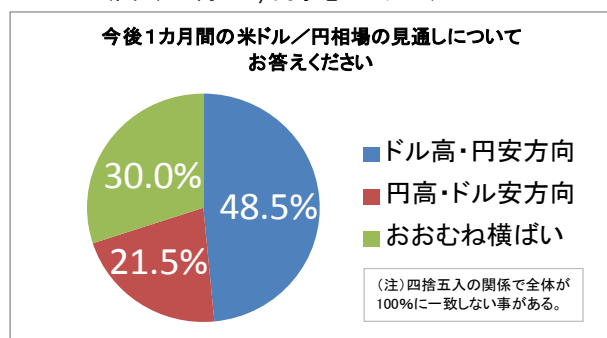
ドル/円予想DI

今後1カ月間の相場見通しについて、ドル高・円安方向を予想した割合から円高・ドル安方向を予想した割合を引いた「ドル/円予想DI」は、11月13日から20日にかけて行った第42回調査(図1)では+27.0%ポイントであったが、12月の第43回調査(12月11日-18日実施、図2)では+52.1%ポイントに上昇した。11月調査の段階では、安倍・自民党総裁が主張する「無制限緩和」などの実現性にやや懐疑的な向きもあったと見られるが、12月調査では、本邦衆院選前後に進んだ円安・株高傾向を目の当たりにした事で、政策実現への期待が膨らんだものと推測される。

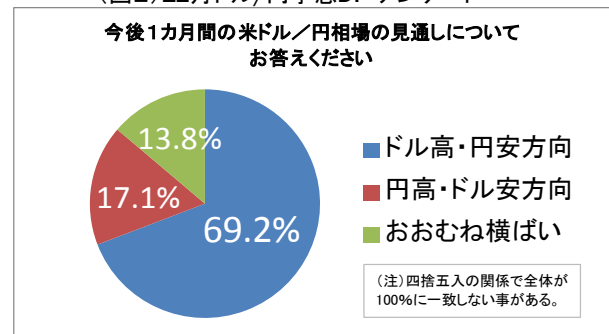
ドル/円のポジション・売買動向

外為どっとコムは、毎営業日ごとに前日クローズ時点における顧客全体のポジションに占める買い持ち(ロング)と売り持ち(ショート)の比率を

(図1) 11月ドル/円予想DI アンケート



(図2) 12月ドル/円予想DI アンケート

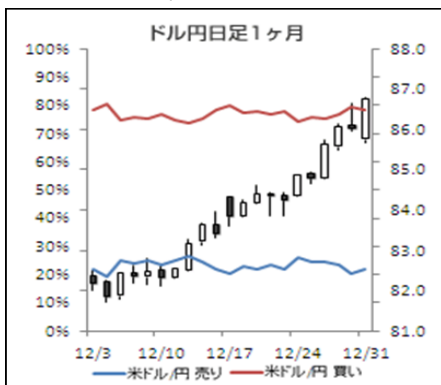


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

公表している。12月各日のドル/円ポジション比率は、買い持ちは概ね70%台後半(売り持ちは概ね20%台前半)で推移した(図3)。これまでは、図4(11月のポジション比率)のように、相場が上昇すれば買い持ちは減少(売り持ちは増加)し、下落すれば買い持ちは増加(売り持ちは減少)する傾向が強かったが、12月は相場が約2年ぶりの水準に上昇したにもかかわらずポジション比率に大きな変動は見られなかった。「予想DI」が示すように先行きの一段の上昇を見込んで売りを控えたFX

投資家が多かったとも考えられるが、12月の売買比率(各営業日における、約定した注文に占める買いと売りの比率、図5)を見ると、売り比率は50%前後で推移しており、11月(図6)と比較して売りが手控えられた様子は見られない。11月に比べ、買いに占める「新規」の割合が高い点と売りに占める「決済」の割合が高い点から考えると、利益確定(「決済」)の売りを吸収しうる規模の「新規」の買いが流入したため、ポジション比率に大きな変動が表れなかったという事だろう。

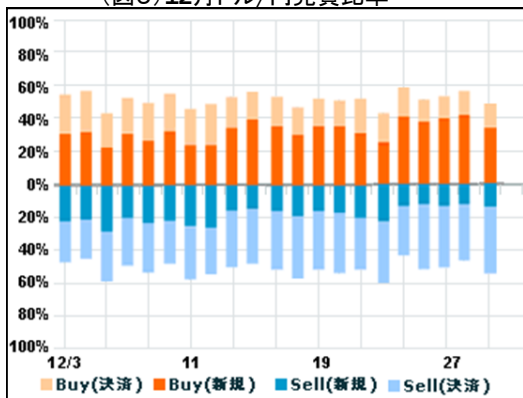
(図3) 12月ドル/円相場とポジション比率



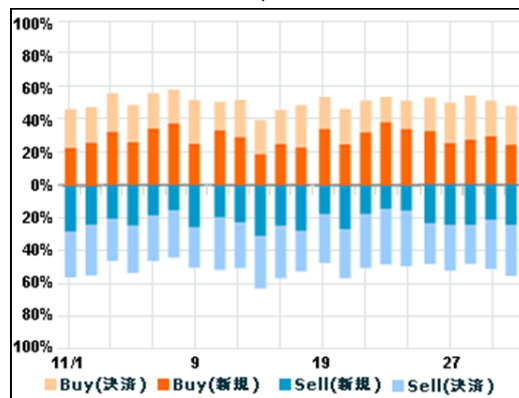
(図4) 11月ドル/円相場とポジション比率



(図5) 12月ドル/円売買比率



(図6) 11月ドル/円売買比率



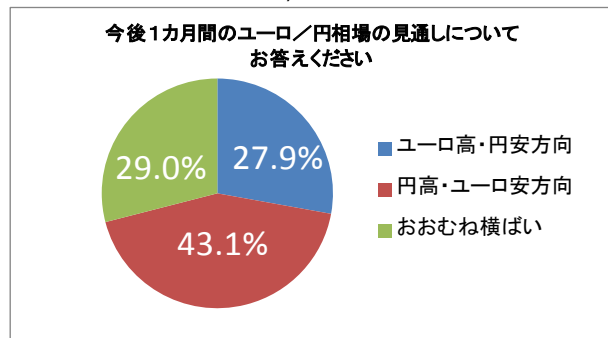
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

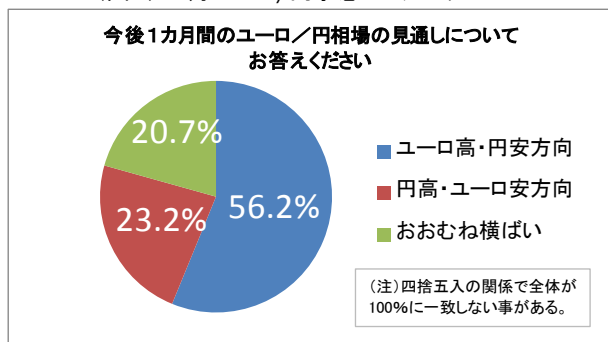
ユーロ/円予想DI

「ユーロ/円予想DI」は11月の第42回調査では▲15.2%ポイントとユーロ弱気・円強気予想が優勢であったが(図7)、12月の第43回調査では+33.0%ポイントと一転してユーロ強気・円弱気予想に傾いた(図8)。11月の時点では、欧州債務懸念の再燃を見込む向きや、安倍・自民党総裁の「大胆な金融緩和」の実現性を疑問視する向きが多数派であったと見られるが、債務懸念に一服感が出る中で、12月に入ると「アベノミクス」の実現期待から円全面安の展開となったため、多くのFX投資家が見通しの修正を余儀なくされたよう

(図7)11月ユーロ/円予想DI アンケート



(図8)12月ユーロ/円予想DI アンケート



だ。

ユーロ/円のポジション・売買動向

12月のユーロ/円ポジション比率は売り持ちが概ね60%台(買い持ちは概ね40%前後)で推移した(図9)。図10(11月のポジション比率)が示すように、これまでユーロ/円については、相場上昇局面で売り持ちが増える傾向が見られたが、12月後半の相場上昇局面では、むしろ売り持ちが減少(買い持ちが増加)している。12月の売買比率のグラフ(図11)をみると中旬以降は売りに

(図9)12月ユーロ/円相場とポジション比率



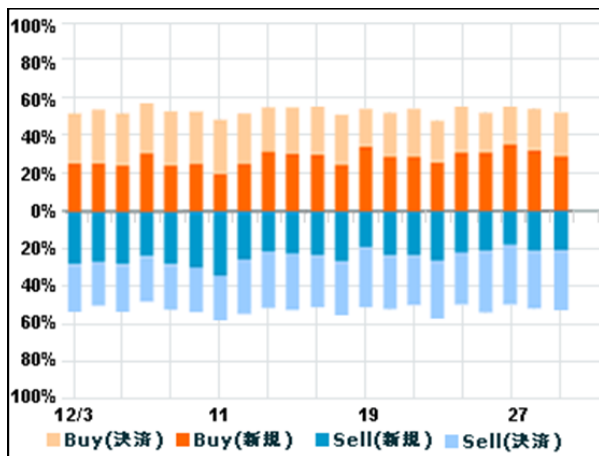
(図10)11月ユーロ/円相場とポジション比率



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

占める「新規」の割合が低下している一方で、買いに占める「新規」の割合が増加している。これまでユーロ安を見込んで売り戦略を採っていた向きが、円安の勢いの強さに押されて売りを手控えたと同時に、一部のFX投資家は、先高を見込んで買い持ちポジションを構築し始めたとみられ、「予想DI」と整合的な売買動向といえるだろう。

(図11) 12月ユーロ/円売買比率

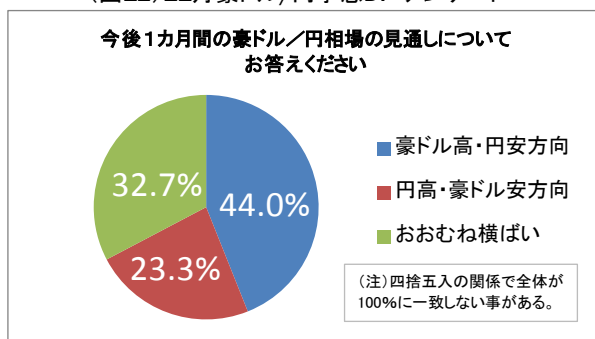


豪ドル/円予想DI

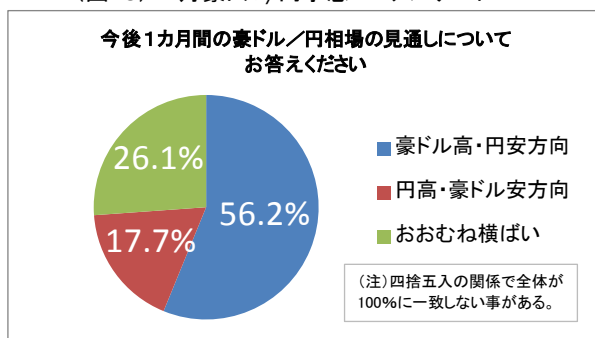
「豪ドル/円予想DI」は11月の第42回調査では+20.7%ポイントであったが(図12)、12月の第43回調査では+38.5%ポイントとなり(図13)、豪ドル強気・円弱気予想が加速した。豪ドル/円はスワップ金利の高さなどから、もともとFX投資家に人気の通貨ペアだが、7カ月連続で豪ドル強気・円弱気姿勢を維持、予想DIのプラス幅も3カ月連続で拡大した。多くのFX投資家は「アベノミ

クス」への期待から円安・株高が進む様子を眺めて、豪ドル強気・円弱気予想に自信を深めたものと思われる。

(図12) 11月豪ドル/円予想DI アンケート



(図13) 12月豪ドル/円予想DI アンケート



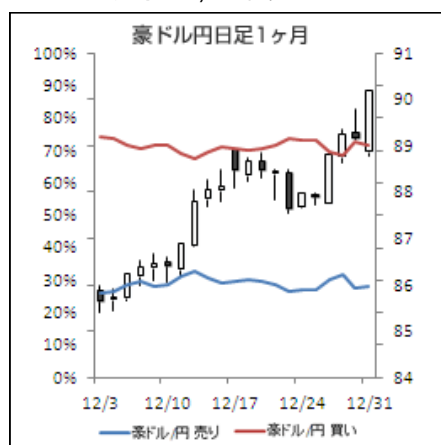
豪ドル/円のポジション・売買動向

12月各日の豪ドル/円ポジション比率(図14)は、1カ月を通して買い持ちが70%前後(売り持ちは30%前後)で推移した。相場が約4年ぶりの水準に上昇したにもかかわらず、大きな変動は見られなかった。ただ、過去の推移を見る限り

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

(図15、11月のポジション比率)、70%前後の買い持ち比率は決して高水準とは言えない。12月の売買比率のグラフ(図16)を見ても売りに占める「決済」の比率が圧倒的に高い事がわかる。「予想DI」が示した豪ドル強気・円弱気予想を背景に「新規」の買いも流入しているが、それ以上に利益確定売りが優勢であったと言えよう。

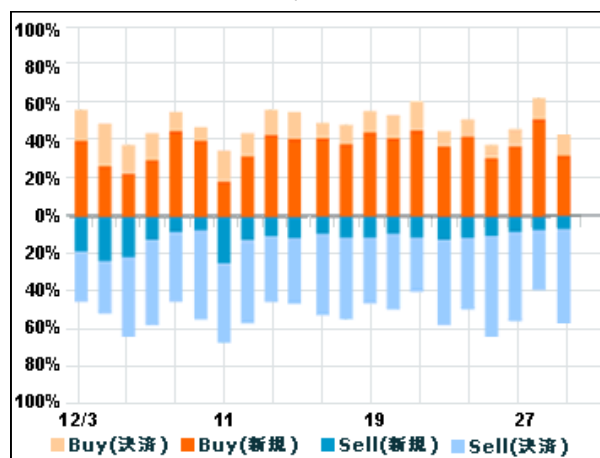
(図14) 12月豪ドル/円相場とポジション比率



(図15) 11月豪ドル/円相場とポジション比率



(図16) 12月豪ドル/円売買比率



まとめ

いずれの通貨ペアについても、これまでは「予想DI」の強弱にかかわらず、相場下落の際に買って上がれば売るという「逆張りスタンス」が目立っていたが、12月の上昇局面では「予想DI」の強さに比して買いが流入するなど「順張りスタンス」も目立ち始めた。市場では中長期的な円安基調を見込む声が多く聞かれており、円安の流れに乗り遅れまいとするFX投資家の動きとも考えられる。年明け以降も円安基調が続く中で、FX投資家がこうした「順張り投資」を一段と拡大させるのか否か注目されよう。為替市場において存在感が増している本邦FX投資家の今後の動向は、為替相場そのものを左右する可能性がある。(了)

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com